

夏かぜのいろいろ

夏も、ウイルス性の感染症がはやりやすい季節です。

代表的なのが「ヘルパンギーナ」「手足口病」「プール熱」です。このうちヘルパンギーナとプール熱は高い熱ですが、手足口病は熱がほとんどなく、かわりに手足にブツブツができます。

このほかにも、名前はついていませんが、熱だけの夏かぜも多く見られます（冬のかぜと違い、咳・鼻水がなく、寒気もありません）。発疹（ブツブツ）のできる夏かぜもあります。

いずれの夏かぜも、中枢神経（脳や脊髄）の中に入り込みやすい性質があり、髄膜炎をひき起こすことがありますので、注意が必要です。



世界の
子どもに
ワクチンを
日本委員会



●ヘルパンギーナとは

乳幼児の間で流行しやすい夏かぜの一種で、38~40度の高熱が2~3日続きます。のどの奥に小さな水ぶくれができます。これがすごく痛いので、飲んだり、食べたりができないこともあります。水分が十分にとれないと、脱水症になることもあります。



●治 療

「特効薬」はなく、症状をあさえる治療が中心です。熱やのどの痛みをあさえる薬（解熱鎮痛剤）を使います。

●家庭で気をつけること

- (1)高熱：何日も高熱が続いますが、熱さましを使いすぎないようにして下さい。暑がっているようなら、涼しくしてあげて下さい。
- (2)食事：のどの痛みが強いため、よけい食欲がなくなります。栄養はなくても、少しづつとれていれば大丈夫です。（すっぱい物や、醤油・ソースはいやがります。）
- (3)水分：水分は十分にとらせて下さい。麦茶、イオン飲料など、あっさりしたものでけっこうです。
- (4)入浴：熱があっても、とくに具合が悪そうでなければ、汗を流すことはかまいません。

●もう一度診察を

- (1)のどの痛みが強く、水分もまったくとれないとき。
- (2)高熱が3日以上つづくとき。
- (3)元気がなく、ぐったりしているとき。

●園や学校

熱が下がり、のどの痛みもとれて、食事も含めて普通の生活に戻ってからです。

(参考) ヘルパンギーナをおこすウイルス

コックサッキー・ウイルスA群、B群、エコー・ウイルスなど多数が知られていますので、何回でもかかるしまう感染症です。